

音 楽 科 学 學 習 指 導 案
題材名 「曲想の変化を楽しもう」
(教材名「思い出のメロディー」「ハンガリー舞曲 第5番」)
令和6年10月 第6学年 指導者 木暮 秀行

I 題材の構想

1 題材観

本題材は、小学校学習指導要領(平成29年3月公示)の「A表現」(1)のア、イ、ウ、「B鑑賞」のア、イ、〔共通事項〕(1)「ア. リズム、旋律、強弱、フレーズ」及び「イ. 反復、変化」に関連している。

児童は、これまで様々な音楽活動を通して、曲想と音楽の構造などとの関わりについて考え、音楽表現を工夫したり、音楽のよさを味わったりする経験をしてきている。そして、第5学年題材「曲想の変化を味わおう」の学習で、曲を聴いたり楽譜を読み取ったりしながら気付いたことや感じ取ったことを互いに伝え合う活動を通して、リズム、旋律、強弱など、様々な音楽を形づくっている要素によって曲想が生み出されていることを学んできた。歌唱教材である「思い出のメロディー」は、A(ア)－B(イ)－A'(ウ)の三部形式の曲で、BとA'の部分に言葉の繰り返しが作曲の段階で付け加えられている。小学校学習指導要領「A表現」の「ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。」を受け、旋律の音の上がり下がりや強弱、歌詞の内容等からア、イ、ウそれぞれの曲想を感じ取り、その曲想にふさわしい表現について歌いながら工夫したり、工夫した表現を言葉や歌で互いに伝え合ったりする活動を取り入れる。また、曲全体を歌い、曲想の移り変わりを味わう活動を繰り返しながら、曲に対する思いや意図を歌で表現したり、伝え合ったりすることができる楽しさを味わわせたい。鑑賞教材である「ハンガリー舞曲 第5番」も三部形式になっており、小学校学習指導要領「B鑑賞」の「イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。」を受け、速度や強弱、調の変化に伴う曲想の移り変わりを感じ取るために適した楽曲である。導入において「思い出のメロディー」の学習と関連づけることで、曲想の移り変わりによるよさや面白さに着目しながら学習を進められるようにする。また、音楽に合わせて指揮をするなど体を動かす活動を取り入れ、音楽を形づくっている要素の関わり合いに注目しながら、曲想やその変化を感じ取って音楽を聴き、友達と話し合う活動を通して、音楽を聴くことそのものの喜びを深めていくようとする。

以上の活動を通して、曲の構成と関わらせながら曲想の移り変わりを味わって表現を工夫したり、曲や演奏の良さを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする能力を高めることができると考え、本題材を設定した。

2 研究との関わり

題材学習の導入において、既習題材で学んだことを振り返り、想い起こしたことを軸に学習を進めていくことは、課題解決に向けて見通しをもって主体的に学習に取り組むとともに学びのつながりや深まり、学習の積み上げを実感するために有効であると考える。そのための手立てとして、本題材の導入において、「曲想の変化を感じ取ろう」での学びを想起するために既習曲を活用し、曲想の変化を感じ取る学習で学んだことを振り返る活動を取り入れる。本時の学習では、昨年度までの学習を基に、音楽を形づくっている要素やそれらの働きなどに着目しながら、思いや意図に合った表現をするための工夫を考えさせたい。そして、演奏を聴き合うことで、曲想の変化を感じながら表現するための工夫について考えが広がり、音楽活動が一体となり深まっていくことを実感させたい。また、学んだことやその知識や技能を基に表現したことを文字や映像で記録し、意見交換することで、互いの気付きや学び、表現のよさを認め合い、意欲や学びの深まりの実感につなげていきたい。

3 題材の目標及び児童の実態

目標	児童の実態
知識及び技能	・曲想及びその変化と、強弱などの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な呼吸及び発音の仕方に気を付けて、 ・強弱記号やアーティキュレーション等の音楽記号に気を付けて歌ったり、曲全体の雰囲気に応じて声量を変えたり発声の仕方に気を付けて歌ったりする等の基本的な技能について

	自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能や、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付ける。	ではほとんどの児童は身に付いているが、音程に気を付けて互いの声を聴き合いながら合唱した経験は少ない。
思考力、判断力、表現力等	・リズム、速度、旋律、強弱、反復、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。	・リズムや調性、音の大きさ等から曲想の違いや変化を感じ取ったり、曲の構造についてよさや面白さを感じ取ったりすることはできるが、曲の特徴にふさわしい表現について考え、歌詞と結び付けながらどのように歌うかについて自分なりに思いや意図をもつことができる児童は多くない。
学びに向かう力、人間性等	・曲想の移り変わりを味わいながら、歌ったり聴いたりする学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組み、様々な音楽に見られる曲想の変化を味わう。	・これまでに、様々な音楽の曲想を意識して歌ったり、聴いたり、合奏したりする活動に対し、主体的に取り組むことができている。

4 評価規準

知識・技能	①曲想と強弱などの音楽の構造や歌詞の内容との関りについて理解している。 (歌) ②思いや意図に合った表現をするために必要な呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能や、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けて歌っている。 (歌) ③曲想及びその変化と強弱などの音楽の構造との関わりについて理解している。 (鑑)
思考・判断・表現	①リズム、旋律、強弱、フレーズを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 (歌) ②速度、強弱、調、反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。 (鑑)
主体的に学習に取り組む態度	①曲想の移り変わりを味わいながら、歌ったり聴いたりする学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 (歌・鑑)

5 指導及び評価、ICT活用の計画（全5時間：本時第3時）

過程	時間	■ねらい □学習活動 ★ICT活用に関する事項	知	思	態	◆評価項目<方法（観点）> ○指導に生かす評価 ●評定に用いる評価
	1	■前学年での曲想に関する学習を振り返り、題材の学習の見通しをもてるようとする。				

[本時のめあて・課題等]
今までに学習した曲想の変化についてふりかえろう。

		<ul style="list-style-type: none"> □「キリマンジャロ」を鑑賞する。 □「夢の世界を」を歌う。 □旋律の特徴について、既習事項を確認し、今後の学習に対する見通しをもつ。 □「思い出のメロディー」を歌う。 			<p>◆曲想の移り変わりを味わいながら歌ったり聴いたりする学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p><行動観察・振り返り（態①）></p>
		<p>[題材の学習課題]</p> <p>曲想の移り変わりを味わいながら聴いたり、思いをこめて歌ったりしよう。</p>			
追求する	2	<p>「思い出のメロディー」</p> <p>■歌詞の内容を捉え、ア、イ、ウ各部の曲想を感じ取って主な旋律（上声部）を歌えるようにする。（★）</p>	●		<p>◆曲想と強弱などの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。</p> <p><ワークシート（知①）></p>
		<p>[本時のめあて・課題等]</p> <p>ア、イ、ウの曲想の違いを感じ取りながら「思い出のメロディー」を歌おう。</p>			
		<ul style="list-style-type: none"> □イ、ウの部分の副次的な旋律（下声部）を歌い、互いの声を聴き合いながら二部合唱をする。 □曲の構造や強弱等を楽譜から読み取り、それらが関わり合って生み出される曲想を基にどのような気持ちを込めて歌いたいか見通しをもつ。（★） □曲想を生かして歌う活動に見通しをもつために、グループで指定された曲想を基に気持ちを込めて歌う。 			
3 (本時)		<p>■歌詞や旋律から感じ取った曲想を基にグループで話し合いながら練習することを通して、思いや意図を生かした歌唱表現を工夫できるようにする。</p>	●	●	<p>◆リズム、旋律、強弱、フレーズを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。</p> <p><発言内容・ワークシート（思①）></p>
		<p>[本時のめあて・課題等]</p> <p>それぞれの曲想について思いを込めた歌い方を工夫しよう。</p>			
		<ul style="list-style-type: none"> □グループで工夫した歌い方を発表し合い、本時の学習で学んだことをまとめる。（★） □呼吸や発音の仕方に気を付けて、互いの声部や伴奏を聴き合いながら、曲想の違いを生かして二部合唱をする。 			<p>◆思いや意図に合った表現をするために必要な呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。</p> <p><演奏聴取（技②）></p>

まとめる	4	<p>■曲想と強弱などの音楽の構造と関わりに理解しながら、その曲のよさや面白さに気付けるようにする。 「思い出のメロディー」</p> <p>□前時の学習を振り返り、曲全体を通して、曲想の移り変わりを味わいながら二部合唱をする。</p>	●			
		<p>[本時のめあて・課題等] 「ハンガリー舞曲 第5番」のよいところや面白いところを見つけよう。</p> <p>「ハンガリー舞曲 第5番」</p> <p>□音楽に合わせて体を動かしたり指揮の真似をしたりしながら聴き、アトイの曲想について、感じたことや気付いたことを話し合う。 (★)</p>				◆曲想及びその変化と強弱などの音楽の構造との関わりについて理解している。 <発言内容・ワークシート(知①)>
5	5	<p>■旋律の反復や変化、調などに着目し、曲想の移り変わりを味わいながら聴けるようにする。 (★)</p>	●	●		
		<p>[本時のめあて・課題等] 曲想の移り変わりを味わいながらきこう。</p> <p>□本題材で学んだことをまとめること。(★)</p>				<p>◆速度、強弱、調、反復、変化を聞き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いていく。<ワークシート(思②)></p> <p>◆曲想の移り変わりを味わいながら、歌ったり聴いたりする学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p><行動観察・振り返り(態①)></p>

II 第3時の学習

1 ねらい 歌詞や旋律から感じ取った曲想を基にグループで話し合いながら練習することを通して、思いや意図を生かした歌唱表現を工夫できるようにする。

2 展開

主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕 ★ICT活用に関する事項	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目(観点)
<p>1 本時のめあてをつかむ。(導入5分)</p> <p>S : ア、イ、ウそれぞれの曲想について、もっと気持ちを込めて歌うためには、どんな工夫ができるかな。</p> <p>S : 歌に気持ちを込めるにはどうすればよいのだろうか。</p> <p>S : アは音の上がり下がりがゆるやかで、やさしく風が吹いているイメージだな。</p>	<p>◎「思い出のメロディー」を歌い、既習事項を確認することで、正しい強弱、音程で歌うことができるているかを把握するとともに、題材のねらいを確認できるようにする。</p> <p>○授業を通して歌声の変容を感じ取ることができるよう、歌をタブレットで録音する。</p> <p>◎前時に感じ取ったア、イ、ウの曲想について発表し、全体で共有することで、それぞれの</p>

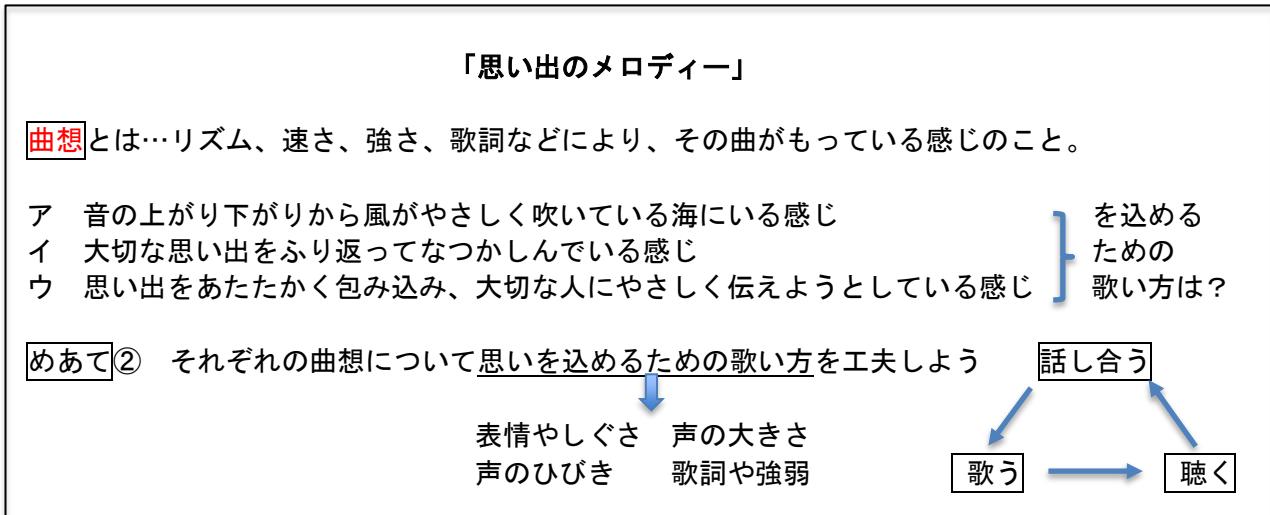
	<p>曲想の違いを確かめられるようにする。</p> <p>○本時のめあてをつかめるように、歌に込めた思いを聴く人に伝えるためにはどのような工夫をすればよいか問い合わせ、思考を促す。</p>
<p><めあて・課題等></p> <p>それぞれの曲想について思いを込めた歌い方を工夫しよう。</p>	
<p>S : 前の時間に、強弱や声の出し方によっていろいろな感情を歌で表現できることが分かったね。</p>	<p>◎歌い方の工夫について具体的なイメージをもつことができるよう、様々な声の出し方や強弱で歌う活動を取り入れたり、声色、表情、強弱等、変化を付けるためのヒントを提示したりする。</p>
<p>2 グループでア、イ、ウの曲想の違いを生かした歌い方を工夫する。 (★) (展開①20分)</p> <p>S : 風が優しく吹いているイメージを出すために、mfは少し小さめに歌ってみよう。</p> <p>S : イは盛り上がっている感じがするから声を大きくはっきりと歌おう。</p> <p>S : 「いつまでも」を二回繰り返しているのは、とても長い時間を表していると思うよ。でもなんで強弱記号はだんだん小さくなっているのだろう。</p> <p>S : どちらの意見がよいか歌って録音して、確かめてみよう。</p> <p>S : 歌声だけでなくしぐさでも曲想を表現することはできないかな。</p>	<p>○声の響きや強弱、歌詞の歌い方など、根拠をもって工夫することができるよう、前時にワークシートに記入したア、イ、ウそれぞれの曲想の違いを基に、表現の工夫を考えられるようする。</p> <p>○ア、イ、ウの三つにグループを分けることで、自分の担当する部分の曲想にふさわしい歌い方を友達と協力しながら、工夫できるようする。</p> <p>○出し合った意見を歌って試したり、録音して聴いたりすることができるよう、各グループにタブレットを二台用意し、活用を促す。</p>
<p>◆評価項目</p> <p>リズム、旋律、強弱、フレーズを聞き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 <発言内容・ワークシート (思①) ></p>	
<p>3 工夫した歌い方を発表する。 (展開②10分)</p> <p>S : アの部分は優しく歌うために声を小さくしているのかな。</p> <p>S : 歌詞を繰り返しているところの二回目が特に大きく聞こえたよ。</p> <p>S : この部分にも工夫があったのだね。</p>	<p>○曲想を歌で表現したことを実感できるよう、聴く児童は、発表者がどのような工夫を行って歌っているのか考えながら聴くよう促す。</p> <p>○聴き手に伝わらない表現があったとしても表現方法を工夫したことによる価値があることを伝え、今後の課題として考えるよう助言する。</p>
<p>4 本時を振り返り、曲想を生かして歌うためによく工夫したことまとめ。 (終末 10分)</p> <p>S : アの部分で声を小さくする工夫がとてもよかったです。</p> <p>S : 歌詞を繰り返すところが上手くいってよかったです。</p> <p>S : 各場面に合った雰囲気を出すことができてよかったです。</p> <p>S : 工夫して歌ったことが伝わってよかったです。</p> <p>S : 他の曲でも表現を工夫していきたいな。</p>	<p>○曲想の移り変わりを味わうことができるよう、グループで工夫したことを基に、全員で曲全体を通して歌唱するよう促す。</p> <p>○本時で考えた表現の工夫について振り返ることができるよう、他のグループの発表を聴いて感じたことや本時の授業で考えたことを振り返りシートにまとめるよう促す。</p> <p>○曲想に対する表現を工夫して歌えたことや、他のグループの工夫を考えることができたことを称賛し、次時の意欲につなげる。</p>
<p><まとめ></p> <p>声の大きさ、表情、ひびきを変えることで、曲想に合った表現を伝えることができた。</p>	

◆評価項目

思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。<演奏聴取（技②）>

3 板書計画

板書①（ホワイトボード）



板書② (電子黑板)

グループで工夫した歌い方

ア：全体的に声のひびきをやわらかくした。やさしい気持ちを込めた。

イ：きれいな声で大きく歌った。後半小さくする部分は「いつまでも～」の気持ちを込めた。

ウ：忘れないでほしいという強い気持ちを込めて、はっきりと歌った。

まとめ 声のひびきや強さ、表情で、思いを伝えることができた。

前時の児童の意見（オクリンク）

